

なほ

12月号
vol. 082



拡大版

リ+なほ+ドク

みんなで団らん 特集

今回の
リレーなびトーク
団らんメンバー

菅育子 (なび7月号・8月号)



思春期真っ只中の娘と向き合いながら、朝は岸里つどいの広場、昼からは雑貨店「ユニ：ノイ」に。他にも西成や阿倍野のいろんなイベントにもアクティブに顔をだし、日々子どもたちと接しながら動き続ける、でも「ほっこりやさしいママ」です。

私の仕事場：uni:neu (ユニ：ノイ)

天神ノ森にある小さな雑貨と貸本とワークショップのお店。放課後の子どもたちの居場所に。ときどき展示会を行うなど、いろんな出会いがあります。

佐々木敏明

なび編集長

平川隆啓 (なび4月号)

植月智子 (なび6月号・7月号)



0歳と2歳の女の子を子育て中。「こどもの里」では「ガニ」というニックネームでたくさんの子どもたちの頼れるおねえちゃん。ちなみにお笑いコンビ「アメリカザリガニ」に似ているとかで略して「ガニ」。家庭と仕事の両立に奮闘中の「パワフルかあちゃん」です。

私の仕事場：こどもの里

釜ヶ崎の中にある、子どもたちの遊び場。小さな3階建ての建物に、地域内外から子どもたちが日々遊びに、ときに相談に、安心して行くことのできる居場所。

篠森弘子 (なび8月号・9月号)



男の子二人のお母さん。夢をあきらめず、天神ノ森で念願のカフェ「あおぞらアトリエ」をオープン。自らつくったお店は、篠森さんそっくりにとてもやさしい雰囲気。友達のようにお母さんのように「親しみ頼れるおかん」です。

私の仕事場：あおぞらアトリエ

天神ノ森にあるおしゃれでやさしいカフェ。カフェだけでなく、ワークショップ、アトリエとしてなど使い方もいろいろ。お母さんたちのたまり場に。

現場とつながる、
人とつながる

佐々木…今日は、これまで「リレーなびトーク」のお礼も兼ねて楽しく食事と思い、お集まりいただきました。焼肉をつつきながら、いろいろ聞きたかったこととか話ができればと思っています。僕はみなさんとお会いするのは初めてです。

菅…実は私、佐々木さんとは何度かお会いしていますよ。お隣の阿倍野区、昭和町での地域イベント「どつぶり昭和町」の中で、佐々木さんはお面づくりをされていたでしょう。私も同じ公園で子どもたちの企画に関わっていました。

佐々木…あつ、そうでしたか。昭和のあそび広場のリーダーの久保さんとは昔からの仲で、僕もどつぶり昭和町に何度か参加しています。

篠森…佐々木さんも、顔が広いですね。私は最近、菅さんにいろいろと引つ張りだされ、いろんな人に出会って吸収している日々です。

植月…私は、佐々木さんとは初めてです。「こどもの里」でずっと働いているけど、子どもたちにも、地域にも近い現場だから、いつも発見がありますよ。



今年最後の「なび」は、西成ではたらくママたち・パパたちを橋渡ししてきた「リレーなびトーク」を特集します。二人のママ・パパが、日常のこと、子育てのこと、地域のことをざっくばらんにおしゃべりしてきた「リレーなびトーク」を、今回はみんなで集まる拡大版でお送りします。



「リレーなびトーク」は、ちよっとつながりそうだけど、なかなかきつかけがなかった「人と人を橋渡し」をコンセプトに、今年4月からスタート。初めて出会う人や、久しぶりにゆっくり話ができた人など、西成のまちで地域も世代も越えて、一人ひとりをバトンタッチ。

今号でvol.9です。ママ・パパというキーワードも、子育てという視点だけでなく、自分の仕事や取り組み、その中での子どもたちや親たちとの関わり方や葛藤、あるいは楽しみや喜びなど、縦横無尽に繰り広げられるお話のエッセンスを掲載してきました。

佐々木…みなさん、いろいろな動き回っているんですね。私はもうじき70歳になるのですが、周りは30代、40代と一緒に仕事することも多くて。だんだん同じ感覚では動けないなと思いつつ、まだ「ワーカーあほリック」を続けています。ワーカーホリックだと固いから、あえて「あ」を入れて（笑）。

植月…とても若く見えますよ。それだけ動き続けられるのは、めっちゃ元気っていう証拠ですよ。佐々木…現場をもつていると、あまり年をとらないね。

篠森…「あおぞらアトリエ」では「あちゃん」の駅」というのをやっています。子どもと一緒にきて安心できるお店。トイレとかおむつ交換とかもできますよという目印なのですが、これがあつちあちゃん連れのお母さんがたくさん来てくれます。あかちゃんを見ているだけで、こっちも元気がなりますよ。

菅…子どもたちの姿ってとてもパワーをもらいますよね。篠森…そう、そして女性はとくに元気！あとタフって言いますよね（笑）。



い！って思います。

植月…遊び方も、甘え方も、怒り方も一生懸命。だからときに激しかったりするけど、それは子どもらしさでもあるかな。

菅…逆に、地域性で言うと、阿倍野からくる子どもたちの中には、鎧がかたくて自分を出せず、それに慣れている子どももいます。

篠森…こどもの里や、西成の子どもたちは、子どもらしさが素直に伝わってくる感じですね。

佐々木…地域や環境のキーワードとして、自由度というのがあるのかな？一方で、「釜ヶ崎」という特定の地域で育ってきた人たちが、自由度が高い中で育ち、その感覚のまま怒りをあらわにすることをいとわない大人になる、というような親から子への連鎖もあるのでは。

菅…私もこどもの里は、かなり現場だなって思いました。子どもたちの最前線。私のところは、それとは違うし、西成と阿倍野も違う。遊びに来るお母さんたちも、どこかゆとりがあつたり。そんな親や子ども一人ひとりの姿が積み重なって、地域をカタチづけているのかな。

身近な場、よりそう目線

佐々木…ここからは僕が「リレーナビ」で興味をもった言葉から、話を広げられればと思います。まずは、植月さんと西野さんのときに話されていた「たくさんのお母さんに知ってもらうこと、そしてお母さん目線に立ってニーズを考えること」というフレーズから。お母さん目線はよく聞くけど、お父さん目線はあまり聞かないから。

植月…お母さんに限ってというのではなく、お父さんもみんな一緒に保護者という意味で使ったんです。

篠森…お母さんって象徴的な言葉だしね。

植月…そのときは、「わが町にしない子育てでネット（子育てネット）」の話題で盛り上がりつつありました。子育てネットは、子育てや子育てを応援しようが集まったネットワークで、できて10年くらい経ちます。始めたころは、お母さんたちのサークルがいろいろあつて、そんな保護者のグループが中心になって動いていました。でも、最近は支援者同士のネットワークは広がったけど、保護者たちが集まりつながら合う場所は、

やさしい方向、やさしい自分

佐々木…篠森さんは、菅さんと「知らず知らずに地域に目が向くようになった」「お互いやね」と盛り上がりつつあったけど、その中で、ご縁があつて地域のことに参加するようになって、「やさしい方向」に向かっているとお話ししていました。この「やさしい方向」って具体的にどんなのかな？とてもいい言葉だなと思ったのですが。

篠森…最近では、菅さんが誘ってくれて、いろんな場面に会える機会が増えています。とっても、うれしい！「どつぱり昭和町」も今年はじめに関わりました。菅さんって、根っこからやさしい感じの人だなと思っています。私もだんだん「やさしい方向」になつているのかなと感じています。

佐々木…やさしさが出てくるきっかけは、人と縁ですよ。最近、感じること、このやさしさは自分の信じている根っこなのかな。



まだまだ広がってはいません。まずは、子育てに一番近い子育て中の人たち、ほしい情報を届けることが大切だなんて思い、それが「お母さん目線」って言葉になつて出てきました。だから、お母さんだけでなく、お父さんも、みんな保護者がつながつていければなと思つています。

菅…一人ひとりの声により添うことが大切だね。

植月…子育て中の人たちにもつと目線をあわせて、みんなの力をかりながらつながつていけるサークルをつくりたいなと思つて、いま「びよちゃんネット」を立ち上げたばかりです。まずはやってみようという想いで取り組んでいます。

佐々木…お父さんもお母さんも、まずは目線をあわせながら生きた情報に耳を傾け、何ができるかみんなで考える感じだね。

植月…支援者という立場では忘れがちな目線なのかな。私もお父さんとして「びよちゃんネット」を生きた活動にしていきたいです。

地域って おもしろい！

佐々木…次は、菅さんの「地域っておもしろいよね」という言葉から話をつなげていきたいのですが。

菅…「ユニーノイ」は、天神ノ森にあつて、ちょうど西成区と阿倍野区の境になります。なので、どつちからも子どもたちが来る。そんな接点で、いろいろな違いが見えてきます。

佐々木…それぞれの地域から親が、子どもが集まる中で、考え方や文化に違いが見えてくるのかな？

菅…まず西成と阿倍野とは環境が違う。親の考え方や、子どもの関心も違う。それぞれ抱える貧困などのしんどさも。たとえば親がいろいろと与えてくれる環境だと子どもたちは考えなくなるし、何もないと子どもたちは考えようとする。それぞれ阿倍野と西成の傾向みたいな感じが出てきます。

植月…こどもの里でも、しんどい環境の子どもたちと接していると、いろんな知恵を身につけていかざるをえない状況でがんばっている子どもたちがいます。

菅…そんな姿を見て、こどもの里の子どもたちは、むっちゃかわいい

と楽になつて、顔がふあつと変わるのを見ると、とっても喜びを感じます。周りには社宅も多くて、子育てを二人きりでしている人も多く、そんな中、ユニーノイやおおぞらアトリエを知つて顔を出してくれたら、そこからいろんな関係を築ける。自分ひとりでも、子どもや親の笑顔があり、菅さんのように周りにいろんな人がいて、私も地域でやさしさを出せるようになったのかなと思えます。

菅…そんな篠森さんもすごいなつて。篠森さんとの出会いは、南船場に置いていたユニーノイのチラシからなんです。それをきっかけに、自分の夢だったカフェを実現しているし。

篠森…そうそう、たまたまあつたチラシを見て、西成にこんなかわいい雑貨店があるなんて！って思いながら、行つてみてすこく気に入りました。これってご縁ですよ。

植月…出会うことですよ。しんどいときも、楽しいときも、だれか

今回は、4月から9月に登場していた6人のうち、3人に地域のこと、現場のこと、そしていろんなご縁についてお話しいただきました。焼肉をつつきながらの団らんもご縁。いよいよ年末。寒い季節に、やさしい気持ちになりながら取り組んでいる活動やママ・パパとしての想いなどを少しでも温められればと企画しました。また、それぞれの現場に縁をつないでいくヒントになればと思います。



(平川)



【平川隆啓】「なび」を通じて、いろんな発想に出会うことのできた一年でした。今年最後は逆転の発想！？というところで、リレーナビトークで飾ってきた表紙写真の順序——ゲストが右、ホストが左を逆にしてみました！！あ、すみません、うっかりミスです。



【田岡秀朋】少しへび年を振り返ると・・・台湾でナイスのハウジング事例を紹介する機会があり、都市部の若者向け住宅政策は東アジア共通のテーマと実感したことかなあみなさんよいお年をお迎えください。

サウスオブミナミ

vol.09

鉄道のある風景：電車編

まちなかを走る電車。西成では、JR線、南海線、阪堺線、地下鉄線など、いくつもの鉄道を見ることができます。その距離、約14.5km*!? 様々な車両がレールの上を行き交います。今回は、電車に注目。街角のあちこちから姿をのぞかせる電車たちは、まちの風景として馴染んでいました。

※西成区内を走る鉄道について、汐見橋線：3.5km、阪堺線：3km、南海本線・高野線：3.5km、四つ橋線：3km、堺筋線：1.5kmで計算。

高架をひゅーんと一直線



高架下からおいしいそうなおい



下町にしなりをガタンゴトン



小さな駅に小さな車体



突如現る!? 窓窓窓



ダイヤモンドトレイン!



駅に到着さあ出発だ!



冬の公園をさっそうと



いつも暮らしのそばに



四つ橋線



南海本線

阪堺線

岸里玉出

天神森

東玉出

高野線

汐見橋線

天下茶屋

北天下茶屋

聖天坂

新今宮

南霞町

金池

金船

堺筋線





リノボトフ

No.09
「西成ではたらくママとパパたち」

プロフィール



竹中伸五
社会人の娘と大学生の息子を育てたパパ。関東に暮らしていた時期も。今はナイスで西成のまちを飛び回るドラムとバードウォッチングが趣味の多趣味な父。



小手川望
小学校4年生の女の子のママ。2年ほど前に、関東から引っ越してきたのに、すっかりここ西成になじんで暮らす着物の似合うママです。

い湯かげん

重なり合う合意

大阪市議会はいま真最中であり、市民交流センターの存廃問題や、地下鉄民営化などが議論されている。堺市長選挙で潮目が変わって橋下市長は大苦戦。自民党や公明党など揃って頑なに、橋下改革を止めている。ポクの周辺でも、これまでも何度か聞いてきた「改革は賛成でも、橋下の狙いが透けて見えるから、今は反対」という、がんこ親父の繰り言が蝉の声のように耳をつんざく。

橋下市長は合意というのが苦手なようで、「統治機構を変えれば、すべてが動く」と原理原則のオウム返し。かたや「がんこ親父集団」は、「黒字の地下鉄を民営化するのには魂胆がある」

今回は、西成のちょうど真ん中らへん、26号線沿い花園町にある can tutku (じゃん・とうとうくー) でお茶を飲みながら、ホストの小手川さんと、ゲストの竹中さんのお話です。同じ西成で活動している、やっぱり西成は広い!! ママ・パパの話も織り交ぜながら、お互い知らなかったそれぞれの取り組みのことを語り合いました。

竹中：あっという間にでしたよ。
小手川：仕事と言えば、竹中さんの不動産の話は興味があるのでちょっと。最近、空き店舗とかたくさん見かけのだけど、なかなか貸してくれないんですよ。ココルームのある山王とか太子は地の利がいいんですけど、シャッター通りになってて。

竹中：こんなお店があったのですね。can tutku は初めてです。実はこの「なび」を出しているナイスという会社で、西成の北西部を中心に、リフォームや不動産、まちづくりの仕事をしていますが、まだまだ知らないこともいっぱいですね。

竹中：もっている人もなかなか貸せない状況があるのかな。何か希望もてる提案をオーナーなどにできると動かしていけるかも。西成だけでないけれど、都市部にはいろんな物件があって、たとえばオーナーが相続放棄した物件など、その活用が宙に浮いてしまっているものも増えていつている。そんな物件をいい地域ストックとして賃貸していくことで、まちを活性化できと思うんですよ。

小手川：私もここははじめて。釜ヶ崎で暮らしていますが、なかなか西成の他の地域は知らないかも。

小手川：面白そう。ココルームに来る若い人の中でも関心があっても場所をどう確保するかは課題なんですよ。もっと地域の知恵を集めて、地域に開いた場所をつくっていただければいいなって思うけど、なかなか場所の情報って手に入らなくて。

竹中：最近、西成の北西部の地域再生・住宅再生などのまちづくりが注目されていて、いろいろ顔を出すようになってきたけど、今日は知らない話をたくさん聞けそうに楽しみます。

竹中：そうですね。私も不動産業者として動いているからいろいろリサーチして情報を集めるけど、なかなか地域に還元していくツールを持っていないから、逆に一緒に調査や発信をできればって思います。

小手川：あ、ママ・パパの話も忘れずしないとイケませんよね。私は小4の子どもがひとりいてて。

小手川：ぜひ、やりましょ! もっと地域に若い人が入って、バランスをとって行けるような方向に向かわないと未来に夢を持ってないです。次の子どもの世代のためにもね。

竹中：僕は社会人の娘と大学生の息子です。ほとんど子育てはまかせっきりで。子どもが小さいころは、休みになれば自分の好き勝手に一緒に遊びに行っていました(笑)。しかも、仕事が不安定だったんで、「お父さんの仕事なに?」って言われると毎回かわっている感じで(笑)。

小手川：私も小さなNPOで働いてるので、子どもに仕事のわかりやすい説明はできないかも。あと、子どもの成長って早く感じられますよね。

今回はホストを竹中さんへバトンタッチ!

などと意味不明の論法で、合意の努力などそっちのけ。これって、中国や韓国、北朝鮮との領土問題や慰安婦問題、拉致問題など、最近の論戦とまったく同じでは...。日本の主張が正しいとしても、相手も独立した国家なんだから、どこで合意できるか、何が合意点になるか、合意できる基礎は何かと、ものすごい努力をするのが外交だとポクは思うのだが、「がんこな日本」になっちゃって、完全に硬直してしまっている。

元々、どうしてダブル選挙で松井知事と橋下市長が大差で勝ったのか。公務員天国とか天降り天国とか、扇情的な言葉を使うのは本意ではないが、明ら

かに行政システムに問題があった、市民の不信は頂点に達しつつあった、すべてはそこが始まりのはず。もちろん、公務員の側にも、市立幼稚園の親にも、市民交流センターの利用者にも言いがかりあり、事情もあるが、選挙の結果は尊重して、いまだける最大限の合意に達しないと、市民は民主主義に飽きてしまう。なのに、民営化でも一番「筋が通ってる」と思う家庭ごみの民営化など、ほとんど議論もしないで、約束の事業者公募は無期限の先送りみたいになった。

ポクは、アメリカの政治学者のジョン・ローズの言う「重なり合う合意」を思い出した。「橋下の正体は...」なんて論法は、差別にこそなれ、合意には至らない。橋下さんも、「選挙で勝てば官軍」なんて挑発するからややこしくなる。ポクは、新自由主義が何だか知らないが「民でやれることは民で」というのは筋が通ってると思ってきたし、地下鉄やごみの民営化も、府立大学と市立大学の統合も、ハシ

楠ナイス代表取締役
福田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

ズムなんて揶揄されても筋は通ってると思ってきた。同じように、韓国の誇張宣伝にはムツとするが、侵略国の軍隊が相手国の女性を慰安婦にしておいて「強制はなかった」で通るとは思われないし、北朝鮮を野蛮国家と書きたて「拉致被害者を返せ」では、筋が通らないと思ってきた。

もう社会は、ハトとタカとか、資本と労働とか、ありきたりの二項対立では語れない多文化にある。新自由主義であれ、ソーシャル・インクルージョンであれ、体系的なものより、それぞれがロールズの言う「重なり合う合意」を積み上げていくのが政治だと思っ



【四井恵介】今年は「地域」について、いろいろ考える年でした。ひとりの手に負えるものではないのだけれど、来年も方向性だけは見失わないように、常に考えていきたいなど思っています。



【飯田沙保里】新居に引っ越して一年が経ちました。去年はしなくてよかった大掃除が、今年やります...ばちばち始めなければ



【高橋静香】もうすぐ4歳になる息子は、サンタさんへのお願いを考え中。少し高齢のものをお願いしたので「サンタさんあかん言うてたわ」と伝えると、「かーちゃん電話したん?」と息子。



枝葉末節

二つの金閣寺1 水上勉と三島由紀夫



hidarimaki こと佐々木です。名越つ尻の「伊賀越え」のぶら下がり通し、10時間余の道中双六は、もう目、首、腰、三味通し演目。けれど人形使い、浄瑠璃、三業のコンビネーションが偉大!

私が中高生の時代、水上勉の小説は、松本清張と並ぶ社会派小説とみなされていて、彼らの初期の小説の多くは貸本屋で読みあさった。私に本を読む習慣を教えたのは貸本屋と学校の図書室であった。図書室が秩序だつて行儀のよい場所だとして、貸本屋は、少年たちが日頃なじまない大衆小説や雑誌が、無秩序に並ぶ狼藉で禁断の空間といえた。

今のように少年が本など簡単に買えない時代、貸本屋では見たこともない大人の世界、あるいは社会という化物じみた回路が存在し、その本棚に居並ぶ書籍たちは、私に未知との出会いを挑んでくるように思えた。私が比較的、社会的関心ごとに早熟だったのは貸本屋の存在がたいへん大きかったと思う。水上や清張らの作品が発刊されること、貸本屋の主がこれを読めと手渡しで、ひととき大人の社会を有料で貸してくれるのだった。

しかし、水上が「金閣炎上」(79年新潮社刊/86年新潮文庫)写真著者とした頃、既に貸本屋という業態が無くなり、日本が高度経済を推進していた時代で、自分自身も中年の域にさしかかっていた頃だった。私にとって水上は遠い存在になりかけていたが、この本の出版は、既読であった三島由紀夫著「金閣寺」(56年新潮社刊/60年新潮文庫)に誘導され、貸本屋以来の久しぶりの水上作品になった。

金閣寺は1397年、三代将軍足利義満が、別荘北山殿内に金箔に輝く三層造りの楼閣を建設した。義満の死後、北山殿は鹿苑寺と称された。鹿苑寺金閣とは誰もが知る別称である。舍利殿として数々の宝物である菩薩像、観音像、經典、義満自らの木像坐像をも配している。絢爛たる寺院建築とはいえ、つまりは権力者の栄耀栄華の別邸であり道楽の虚寺でもあった。



第九回「楽塾」 西成活動記



身近に音楽を
風呂屋「三星温泉」の下で、毎週土曜日に開かれる楽しい学びの場「楽塾」。そこで、初めてライブが行われました。いつもの小さな空間も、また違った温かさに包まれました。そのあとはライブで歌っていただいた李知承(イ・チスン)さんと一緒に給食を囲み、楽しく談笑。これを機会に、身近に音楽を楽しめる西成の小さなスポットを探してみます。

文・写真：平川隆啓

ピスのつばやま



ピスの育ての母の赤井まゆみです。ピスがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

365日をたいせつに生きようと誓った初日の出。あの誓いの日からもう1年。朝、目が覚めたら喜びを感じたかな? 昼、いっぱい笑顔で頑張れたかな? 夜、1日無事に過ごさせて感謝できたかな? すると私の頭を優しくなでってくれる、いつもの手を感じた。そして「ピースちゃん、たいせつに生きてたよ」ってささやく声が聞こえたように思った。いつのまにかコタツの中でうとうととしていた私。まるで私の姿は、コタツを背負ったカタツムリのようなものでは? ワンワン!!

赤井まゆみ

思ったら! にしなりカレンダー

ライブ&パフォーマンスで盛り上がり

「The Nightmare Before Christmas」

マジック × エンゲキで今、話題の全く新しい体験型エンターテインメント! drama×magic=ドラマギ!
小劇場でマジックと演劇の不思議な世界で誘います!?

日時: 12月14日(土) 18:00 -
15日(日) 13:00 - / 16:00 -

前売: 2,000円 当日: 2,500円

お問い合わせ: アカツキサトシ

mail: tejinacy@gmail.com

http://ameblo.jp/tejinacy/

「DK Night vol.2」

BLACK MUSIC を中心とした BAND LIVE に、多数の
LIVE PAINTER に、BELLY DANCE まで!
関西を中心に活躍するアーティスト達を集めて繰り広げる
JOINT CAFE EVENT !

日時: 12月22日(日) 17:00 - 22:00

前売: 男性 2,000円 女性 1,000円

当日: 男性 2,500円 女性 1,500円

https://www.facebook.com/dk.night.420?filter=3

会場: カフェ+ギャラリー can tutku
(松 1-1-8 出口ビル 1F)

http://cantutku.sensyuuraku.com/

ギャラリー、カフェ、雑貨をめぐって

「ふたつの足跡」

～オートマタとアニメーションの展示～

ギャラリー「あしたの箱」のクリスマス。浅岡富之と鋤柄
真希子による、オートマタ(西洋からくり)とアニメーション
の二人展。ともに「うごくこと」で新しい世界を見せてく
れます。繊細で美しい、ちょっとおとなのクリスマスを♪

日時: 12月7日(土)～23日(日)
13:00 - 19:00 (最終日 17:00) ※水・木曜日休み

場所: ギャラリーあしたの箱 (岸里東 1-6-7)

お問い合わせ: ギャラリーあしたの箱

TEL/FAX: 06-6659-8892

mail: info@ashitanohako.com

http://ashitanohako.com/hako/

他にも…

アニメーション上映会

鋤柄真希子のアニメーション上映と作家のトーク。
「カラスの涙」「蛸姫」「やまなし」「雪をみたヤマネ」など上映。

日時: 12月15日(日) 18:00 - 19:00

料金: 大人 1,000円 小学生 400円

スタンプラリー

会期中、ご近所のお店、カフェ「あおぞらアトリエ」と、
絵本と雑貨「ユニー:ノイ」と「あしたの箱」でスタンプラリー
を開催。スタンプを3つ集めれば素敵なプレゼントも!

イルミネーションでクリスマスらしく

「OSAKA ニシナリエ」

西成区役所庁舎前の樹々を約17,500個のLED電球で明るくライ
トアップ。「明るさ・元氣」を届ける西成最大!のイルミネーション。

期間: 12月6日(金)～1月31日(金)

「イマナリエ」

西成区の今宮地域で、「今宮ふれあい広場」、特別養護老人
ホーム「ローズ」駐車場、「大阪自強館いきいきセンター」
の3カ所で開催。

期間: 12月2日(月)～1月31日(金)

あとがき

12月のある日、JR車中の私の向かいの席で、
11人中6人が書籍派(女性が4人)、4人がスマ
ホ派、1人が持ち物なし。

ゲーム能力増進とコミュニティ幻想のスマホ
派に比べ、頭脳に滋養を補給する書籍派たちは、
たいへん頼りに感じた風景でした。

(佐々木)

なび12月号(vol.82)

発行日: 2013年12月10日(創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

発行人: 代表取締役 富田一幸

印刷: 有限会社前山企広

住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp url: http://www.nice.ne.jp/

編集長: 佐々木敬明

編集・表紙写真撮影: 田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト: hidarimaki

デザイン: 高橋静香

(表紙の写真は「カフェ+ギャラリー can tutku」で撮影しました。)